第4章 調査の成果

第1節 調査の概要

調査区は東西約50m、南北約5〜8mの領域をなし、中央で検出した弥生時代後期築造を基に、その内側（東区）と外側（西区）に区を分けることができた。東区北端に隣接する欄間設置時のもの、東区東南部と西区の水路状のもの以外は、近現代の擾乱は比較的少ない。築造区は褐色粘質土や褐色シルト質粘土の帯状を覆われた状態であったが、残りは良好ではなかった。人々の活動が途絶えた後、流水等によって遺構面が削平されながら、含砂層が増えた状態と考えられる。遺構のレベルは、中央の縦断部分が落ち込んだ状態で、西側の縦断7m下から、縦断積層高約6.5mまで数か所に傾斜し、東側の縦断7mにわずかに上る。遺構密度は、東区で比較的高く、西区で低い。

層序は上から、現代道路路盤・客土→褐色～黄色シルト質粘土→褐色粘質土(遺物包含層)→褐色～黒褐色砂質粘土(遺構面・地山)→粘土・砂の複雑な互層堆積層を形成する。

遺構は主に、褐色粘質土に地山の黄色粘質土に砂粒が多く、ブロック状に誤げることが大半で、シルト質・灰色帯が強いものも見られた。地山との区別は、平面検出時は比較的容易であったが、掘削時は地山が柔らかくやや困難であった。遺構同士の切り合いは不明瞭であった。地山の沖積堆積層は大別3種に分かれる。下層は褐色砂質シルト質粘土で、中層は褐色化した粘土と砂土による複雑な互層堆積層で、上層は褐色～黒褐色砂質シルト～粘土である。上層土は下層土ほどしっかりと、汚れた土で、無遺物の遺構面となる。

遺構の概要は、1×1間・2×1間の畳柱建物と柱穴、壁面ののみを残す遺跡建物S C 0 4 3、小倉と土坑からなる周溝建物、土坑、弥生時代後期の築造S D 1 2 0 、中世水路、包含層である。畳柱建物は5棟を復元したが、調査区外の柱穴との関連も含めれば、さらに数棟の存在が予想される。築造建物S C 0 4 3 は、調査区内で比較的古く、築造形成期の築造の可能性がある。周溝建物は、竪穴状の掘り込みを小倉が周囲で築造を、縦断内で数基を確認した。S D 1 2 0 は断面逆台形の築造で、調査区内で東西方向から北方向へ目視することを確認した。築造後には、流路状堆積S D 0 9 0 (弥生時代)、包含層S X 0 0 2 (弥生時代中世)が堆積する。また、南側から走ってきた溝S D 1 7 0 と合流する。S D 1 2 0 、170からはコンテナベース100箱強の土砂と、土塁製作2点、各種の土製品、無遺物、石器が出土。S D 0 0 1 は1面で確認した сери中頃の溝で、分化したり、並走したりする小倉が伴い、水路としての機能が想定される。

遺物は、弥生土器・土師器・須恵器、埴輪、瓦、木器、石器、鉄器、ガラス製小玉など、弥生時代〜近世の遺物が、コンテナベース150箱分出土した。弥生時代後期後半〜古墳時代初期の遺物を主体として、弥生時代中期〜後期半、古墳時代、飛鳥〜奈良時代、中世の遺物が含まれる。以下の報告では、遺物の詳細については観察表(第1〜4表)を参照されたい。陶磁器の分類・時期の記述については、宮崎亮一(2000)『大宰府要覧編』V X : 陶磁器分類編(大宰府市の文化財第49集)を参照した。

第2節 遺構と遺物

1. 畳柱建物S S B

栗原内部(東区)を中心に複数の柱穴を確認した。柱穴は円形〜機能方形を呈し、径70〜90cm、深
第4図 遺構全体図(1/200)
第5図 SB158・160実測図(1/50)
第6図  S B 161・159実測図(1/50)
第7図 S153・S1測同(1/50)

さ30〜70cmの大型柱穴と、径40〜50cm、深さ10〜40cmの中型柱穴、それ以外の小型柱穴に大別される。柱痕跡や底面の柱当たりを残すものに少なく、残っているものでは径径15cmほどである。調査範囲が狭く、掘立柱建物として立てられるものは限られる。建物との関わりが不明な柱穴については、柱痕跡を残すものと同化に耐える遺物が出土したものについて報告する。出土土器の時期の傾向としては、壱縁内側の柱穴の大部分が弥生時代後期後半〜古墳時代初頭、壱縁外側の柱穴には古代のものが含まれる。

S158(第5図) 東区東側に検出した1×1間(2.6×2.4m)の掘立柱建物である。径50〜70cm、深さ30〜70cmの大型柱穴S153・404・075・077からなる。SK004・006、SD010などの周溝建物に切られており、本調査区の遺構群の中では比較的に古いものとなる。

出土遺物(第8図) S1077から直口壷(1)が出土。弥生時代後期前期～中世初期に考えられる。本調査区の出土遺物の中では比較的古く、遺構の層位関係とも整合的である。同柱穴から弥生時代後期の土器片が出土している。

S160(第5図) 東区西側に検出した1×1間(2.8×2.2m)の掘立柱建物である。径70〜90cm、深さ30〜40cmの大型柱穴S1044・101・137・142からなる。SC043を含む、SD016、SP038(S159)に切らされる。各柱穴から同化に耐える弥生時代後期〜古墳時代初頭の土器片が出土している。

S161(第6図) 東区西側に検出した1×1間(3×2m)の掘立柱建物である。径50cm、深さ30〜
第8图 S P出土器实测图(1/3)
40cmの中型柱穴SP057・059・082・141からなる。SC043や他の中型柱穴を切る。各柱穴から円形に耐えない弥生時代後期〜古墳時代初期の土器片が出土している。

SB158（第6図）東区西側で検出した2×1間（3.7×2.6m）の掘立柱建物である。径40〜50cm、深さ10〜30cmの中型柱穴SP036・045・054・083・他2柱穴からなる。SC043とSP044（SB160）を切り、中型柱穴に切られる。
出土遺物（第9図）SP038から黒曜石製打製石器（18）とガラス小玉（19）が出土した。その他柱穴から弥生時代後期〜古墳時代初期の土器片が出土している。

SB163（第7図）西区西側で検出した1×1間（3×2.5m）の掘立柱建物である。径50cm、深さ30〜40cmの中型柱穴SP089・115・162からなる。SP089に径15cmの柱痕跡を残す。
出土遺物（第8・9図）SP089から器台（2）、SP162から刀（3・4）、玄武岩製長刃石斧（21）が出土した。21は背面が刃部から長く剥離・破損している。全体に風化が著しく詳細は不明だが、背面剥離後に、基部に平坦面がみられ、刃部もわずかに再生・使用した痕跡が認められる。出土土器2〜4は弥生時代前期半・高麗様式土器の新しい段階と考えられるが、その他柱穴から弥生時代後期〜古墳時代初期の土器片が出土しており、遺構の形成時期が後期後半まで下る可能性も否定できない。SP017・012（第7図）東区西側で検出した柱痕跡を残す柱穴である。SP017は径50cm、深さ15

第9図 S P出土遺物実測図（18・19は1/1、20は1/4、21・22は1/3）
第10図　S C043(1/50)および出土土器実測図(1/3)

cm、柱頭径15cmの中型柱穴、S P012は径80〜100cm、深さ40cm、柱頭径15cmの大型柱穴である。各柱穴から図に明記していない発見後期〜古墳時代初期の土器片が出土している。

その他S P(第4・7・15図)と出土遺物(第8・9図) S P062は西区東側で検出した中型柱穴で、壇(5)が出土した。S P050は東区西側で検出した中型柱穴で、S P012に切る。壇(6)が出土した。S P069は東区東側で検出した小型柱穴で、壇(7)が出土した。S P067は東区東側で検出した大型柱穴で、器台(8)が出土した。5〜8は弥生時代前期後半〜須恵器II式土器で、柱穴の堆積時期を示す可能性もあるが、柱穴埋設過程で周辺構築や土層の堆積層から混入した可能性もある。S P041は東区西側で検出した小型柱穴で、器台(9)が出土した。S P155は西区で検出した中型柱穴で、壇(10)が出土した。S P143は東区西側で検出した中型柱穴で、壇(11)が出土した。S P036は東区東側で検出した中型柱穴で、壇(12)が出土した。S P151は西区で検出した小型柱穴もしくはS D001に関わる溝溝の凹凸で、高台(13)が出土した。S P046は東区東側で検出した小型柱穴で、壇(14)が出土した。S P145は東区西側で検出した小型柱穴で、玄武岩石柱(20)が出土した。大型の川原石を分割縫として、側面から横長片片を連続縫している。S P053は東区西側で検出した中型柱穴で、柵(22)が出土した。玄武岩片片片端を両面加工して刃部としている。9〜14は弥生時代中後期〜下大隅式〜古墳時代前半〜須恵器II式土器であり、環濠内側(東区)で検出した大半の柱穴群の時期を示すと考えられる。

S P122は西区で検出した小型柱穴で、土師器小皿(15)が出土した。S P125は西区で検出した中型柱穴で、土師器小皿(16)が出土した。S P127は西区で検出した中型柱穴で、S D106・107を切る。土師器高台年検(17)が出土した。15は8世紀、16・17は9世紀の土器である。環濠外側(西区)で検出した柱穴の一部は、この時期を示すと考えられる。

2. 墳穴建造S C

S C043および出土遺物(第10図) 東区西側で検出した壁溝のみが遺存する1辺44cmの方形堅穴建物である。壁溝は幅20cm、深さ5cm前後と残りが悪く、床面や柱穴などの関連遺構は確認できない。周辺の溝や柱穴に切られており、本調査区では比較的古い遺構となる。出土資料が少なく明確ではない。
いが、弥生時代後期前期・高階式の小型掘(23)が出土しており、集落の初期の造構の可能性がある。

3. 周溝建物

小型堀穴とそれを囲んだ幅30〜40cmの溝からなる造構を周溝建物とする。調査区が狭く、相互の関連が明確でないため、便宜的に堀穴SK004・005・114とその周囲の溝を、それぞれを周溝建物1〜3として報告する。また、遺構の大半が調査区外に堀穴との関連は不明であるが、円弧を描いていいて、周溝建物に関わると考えられる溝については周溝1〜4として報告する。

周溝建物1：SK004・SD010・011（第1図） 東区東側で検出した堀穴SK004と周溝SD010・011からなる。南側は大塚遺跡第11次調査で確認され、北西部～東部は今宿五郎江遺跡第2次調査の南側未調査区へ延びる。SK004は不整形な方形を呈し、長辺が3m、短辺が2.2m、深さが15cm残存する。堀穴内西側・床面からやや浮いた位置に厚さ1〜2cmで堆積する炭化物層を検出した。東側で大型ピットを確認したが、周溝建物に関わるかどうかは不明である。SD010は、SK004西側に軸を合わせて走る小型溝である。幅25〜30cm、深さ15〜20cm、長さ5.5mが残る。不明瞭ではあ
ったが、S D 015を切っていると判断した。S D 011も、S K 004北側に軸を合わせて走る小型溝である。幅40cm、深さ20cm、長さ2.5mを残し、延長が調査区外となっているが、S D 010と西側でつながる可能性がある。その他に、S K 004西側で検出したS D 076もS D 010と軸を合わせることが、関連は不明である。各遺構からは土器がまとまって出土している。
出土遺物第12図 S K 004からは、壷（24・26）、高坪（25）、壷（27）が出土した。この他、弥生時代後期後期〜古墳時代初頭の壷・壷・高壷（28）、舌（29）、高坪（30）が出土した。29号は底面に貼り付けおよび剥離の痕跡が認められる。脚付もしくは底底の脚になる。30号は壷部が直立状態に立ち上がっている。脚部は広がって短い。この他、弥生時代中層後期〜後期の土壷小片がコンテナケース1箱分出土した。S D 011からは、弥生時代中層の壷（28）、舌（29）、高坪（30）が出土した。29号底面に贴り付けおよび剥離の痕跡が認められる。脚付もしくは底底の脚になる。30号は壷部が直立状態に立ち上がっている。脚部は広がって短い。この他、弥生時代中層後期〜後期の土壷小片がコンテナケース1箱分出土した。S D 011からは、弥生時代後期末の土壷小片が少量出土した。遺物から、これらの遺構の時期は、古墳時代初頭と考えられる。周溝遺物2よりもやや新らしい様相がみられる。
周溝遺物2：S K 006・S D 015（第11図）東区東側で検出した壷穴S K 006と周溝S D 015・061からなる。S K 006は、不整形の方形で、長辺3.2m、短辺2.1m、深さ5〜10cmを測る。中央の床面直上で炭化物を検出した。関連は不明だが、床面で4つの中・大型ビットを検出した。S D 015はS K 006の東側で軸を合わせて走る小型溝である。幅30cm、深さ5〜20cm、長さ4mを残す。不明瞭ではあったが、S D 010と切られていると判断した。S D 061はS K 006の東側で軸を合わせて走る小型溝である。幅30〜25cm、深さ5〜7cmと残りが悪いが、S D 015とも平行しており、一連の遺構であった可能性がある。S D 011・009に切られる点も矛盾はない。この他、S K 006北側で検出したS D 064・100もS D 061と軸を合わせることが、関連は不明である。各遺構から土壷がまとまって出土した。
出土遺物第12・13図 S K 006からは、弥生時代後期後期・下大洲式の壷（31）、袋状口縁壷（32）、舌（33）、玄武岩製大型刀部（36）、小型磨石（37）が出土した。36号は横長剥片の縁辺に最低限の二次加工を施して矩形状に成形している。全体に風化が強く詳細は不明だが、二次加工は急角度の剥離で郭利な刀部作出というよりは全体の成形を目的としており、上辺は素材の直線的な形を活かし、下辺を平面円形に成形していることから、ここを使用部とした可能性が高い。この他、弥生時代後期〜古墳時代初頭の壷・壷・高壷（28）、舌（29）、高坪（30）がコンテナケース1箱分出土した。S D 015からは、弥生時代後期末〜古墳時代初頭・西新式土壷の壷（34・35）が出土した。遺物から遺構の
第14図  SD009・029・016出土陶器实测图（1/3）
時期は弥生時代後期末～古墳時代初頭と考えられる。周溝建物1よりもやや古い様相を持つ。

周溝1：SD009(第11図) SK006北側で検出した幅30～40cm、深さ20cmを測る小型溝である。円弧を描いており、北側の調査区外へ延長してい。SD029を切る。土器がまとまって出土した。

出土地点(第14図) 弥生時代後期の袋状口縁壷(38)、古墳時代初頭の壺(40)・小型丸底壷(39)・高壷(41)が出土した。この他、弥生時代後期～古墳時代初頭の土器小片がコンテナケース半箱分出土した。

周溝2：SD029(第11図) SK006北側で検出した幅35cm、深さ20cmを測る小型溝である。円弧を描いており、北側の調査区外へ延長してい。SD009に切れる。土器がまとまって出土した。
出土遺物（第14図）弥生時代後期後半の高坪（43）、立岩式の大黒（42）が出土した。この他、弥生時代後期～古墳時代初頭の土器が出土した。
周溝13：SD018（第4図）東区西側で検出した幅40～60cm、深さ10～35cmを割る小型溝である。内窪を含めており、北側の調査区外へ延長する。SC043を切る。土器がまとまって出土した。
出土遺物（第14図）壷（44）、壺（45）、高杯（46）、帯合（47）が出土した。44は口縁部と胴部が接合しない同一個体を図上復元している。46は、口縁部が褶く、胴部が平坦をなす。弥生時代後期後半～下大隅式土器を主体とする。この他、弥生時代後期～古墳時代初頭の土器が出土している。
周溝遺物3：SK114・SD106・150・128・113（第15図）SK114は西区SD001下で検出した不整形竪穴で、1辺4.5mほど、深さ2～8cmが残る。中央の径1～1.5mの範囲に炭化物層が堆積し、その下に、径45cm、深さ35cmのピットSP154が設けられる。遺土は、SK114とSP154最も下層が同じ質の暗褐色シルト粘土層で、SP154中・上層に炭と土器片が堆積する。SK114の周囲直径約10mを囲む円筒形状にSD106がめぐる。南側は大円溝跡で第11次調査で調査されている。幅30～35cm、深さ10～20cmを測り、溝底面は西から東へ傾斜する。SD107を切る、SD128・113と連結する。SD150・128・113は、幅20～30cm、深さ10～20cmとSD106より小型で、西から東へ連なり、傾斜する。周溝西端の水は、SD106・150・128・113を経由して、東側の稜溝へ排水されたと考えられる。SK114とSD106から土器がまとまって出土した。
出土遺物（第16・17図）SK114からは、弥生時代後期の壷（49）、古墳時代初頭の壷（48）、高杯（50・51）が出土した。この他、大壷の幅広低突帯の胴部片など、弥生時代中期後半～後期の土器小
第17図  S D 106出土土器実測図(1/4)
片がコンテナケースを括半分出土したが、遺存状態が悪く、図示に耐えるものは少ない。S D 106からは、古墳時代初期の醚(57・58・59)、鞍付醚(60・61)、小型醚(64)、直口醚(62・63)、高壇醚(65～68)、壇台醚(69)が出土した。S D 113からは、下大堰式の高壇醚(52・53)、支脚醚(54)が出土した。52は口縁部と体部が接合しない同一個体を図示復元している。S D 128からは、壇台醚(55)が出土した。遺物から遺構の時期は、古墳時代初期と考えられる。

図説 4：S D 107(第15図) S K 114北側で検出した幅30～45cm、深さ10cmを残す小型醚である。西側は今宿五郎江14次調査区へ延びる。S D 106に切られる。

出土醚物(第16図) 弥生時代後期末の大壇醚(56)が出土した。この他、弥生時代後期末～古墳時代初期の士器が出土している。

4. 土壇 S K
S K 007(第18図) 東側中央北側で検出した長幅1.2m、短幅0.8m、深さ20cmの稜円形土壇である。西側底面部分に壇底部跡、磨石、礫石がまとまって出土した。外来系土壇と思われる小片も出土しており、掌や祭壇土壇など特殊な性格が予想される。

出土醚物(第18図) 弥生時代中期の醚(70)、磨石(71)・礫石(72)が出土した。72は前面のみが使用面であるが、風化・着着物によって破壊度など詳細が不明である。その他の、焼成が他と異なり、灰色に発色した軟質醚器小片が1点出土した。縁部小片で磨滅が著しく図示化し難いが、比較的厚手で模様は壇・塀-塀と推定される。三線系醚器の可能性がある。この他、弥生時代中期～後期末の士器小片が少量出土した。遺物から遺構の時期は弥生時代後期末と考えられる。

S K 034(第4図) 東側中央北側で検出した不整形土壇で、幅10cmを測る。比較的大きな遺物が出土し、周辺構造の構築の可能性もあるが、側面に連続しそうな円弧溝がみられず、遺構の構築が調査区外であるため、性格は不明である。

出土醚物(第19図) 古墳時代初期の醚(73)、醚(74)、高壇醚(75)、軽石醚器足(76)が出土した。この他、図示に耐えない弥生時代中期～古墳時代初期の土器小片が少量出土した。

5. 環壕 S D
S D 120(第20図) 調査区中央で検出した、幅6m、深さ1.2mの断面逆台形の溝で、弥生時代後期環濠である。調査区南側の大壇醚器11次調査区から北方向へ延び、本調査区内で北方向へ向きを変え、調査区北側の今宿五郎江12次調査区へ延びていく。また、大壇醚器11次調査区から北西方向へ延びできた溝S D 170が、本調査区で環壕S D 120と合流する。溝の立ち上がりは、西側が傾斜角度20°であるのに対し、東側は傾斜角度55°と急で、その上端から2m東は地壇が40cmほど高くなっており、この部分には遺構が形成されていない。溝内の堆積は、下から4層(中砂・有機物層の細かい土層)→3層(細砂層)→2層(黑色土層)、入間大花差岩等付ける)→1層(粗砂層)と分け、遺物を取り上げた。整理・報告ではこの分層をそのまま用い、第20図の土壇層は4層(6a・b層、3層-5a・c層、2層-4a～d層、1層-3層)という対比になる。4層は環壕形成初期の堆積層で、底面幅が2mで平坦をなし、削られた山峰ブロックを含む砂層であることから、恒常的に水が流れていった状態と考えられる。3層は4層と同様に断面逆台形の溝だが、4層よりも粘土質の比率が高くなったり、混ざりが透かなかったと考えられる。有機物層として特徴づけられ、小枝・種子等に混ざって木質遺物が出土した。北側と東側の土壇観察用ベルトから堆積土を400ほど採取し、洗浄して有機遺体を抽出した。これについては同定分析を行っている(同書第5章第3節)。2層は3層よりも砂質が池山が削った土が多く混ざり、堆積が複雑となる。平面では把握できなかったが、土壇断面をみると、水平堆積とは異なる不整断面がみられるため、堆積の発達が特に強調されている可能性がある。土壇
1. 酸黄色10YR 3/3砂質粘土。径5～10mmの白色砂、地山小ブロック含む
2. 浮遊色2.5Y 3/1砂質粘土。地山ブロックを空状に含む
3. および黄褐色10YR 5/4砂質土。地山多く含む
4. 青緑～濃い青色砂質粘土（地山）
第20図  S D 120・170実測図(平面1/100、土層1/80)
第21図  S D 120・4層出土土器実測図(1/4)
石器・鉄器・土器・赤色岩石など多様な遺物が出土している。また、西側に堆積した4e層は一連のものと考えられるが、平面的にも分層可能であったため、SD130として遺物を取り上げている。なお、本層の珪藻化石群集は、様々な環境に生息する珪藻化石が混在する混合群集であり、潜水期を挟みながら、周囲の表面土壌が雨水等によって流れ込む堆積環境であったと推定される（本书第V章第3節）。1層は砂層で、堆積としては2層と一連であるが、竪麓内最上層として、遺物を分けて取り上げた。堆積は、巻鏃頂面から1mでは青灰色砂質粘土で安定した堆積だが（第20図上層8層）、その上に粘土と砂の互層が複雑に堆積する（第20図上層7・12層）。この層についてはサブトレ
第23図  S D120・4層出土土器実測図(1/3)

4層出土遺物(第21〜24図) 土器は、壷(77〜81)、小型壷(82・83)、鉢(84・85)、蓋(86)、各種壷(87〜95)、黒釉壷(96)、高帯(97〜99)、器台(100〜102)、支脚(103・104)、小型鉢(105)が出土した。80は口縁部内面から胴部外面にかけてわずかに丸が観る。82は底部立ち上がり部分に焼成後穿孔が施される。S D170との合流付近から出土した。83はほぼ完形で、欠損した口縁部〜胴部1/3は打ち欠きの可能性がある。88は口縁部上面に径2cmほどの粘土円盤が貼り付けられる。89は喙肩突刺部で、胎土に金線が目立つ、色調は橙色を呈する。87は、頸部に1〜1.5cm幅の縦位集線形文が1.5
〜2cm間隔で施され、口脇部上部から外面に丹が塗布される。90は内外面を丁寧なハケメ調整後、丹塗りしている。91は内外面を丁寧なベラナデで仕上げ、肩部に径7〜9cmの焼成後打ち欠き孔を有する。93は大型の無頸蓋で、内外面から肩部外面にかけて丹が塗布される。94は小型袋状口縁蓋で、外面にわずかに丹を残す。96は無頸蓋で、頂部に凹みや、横方向からの浅い刺突などがみられる。摘み部を直線した成形痕跡であろうか。胎土は金雲母が目立つ。97は内外面に丹がわずかに残る。102は外面を丁寧なラテミガキで仕上げ、わずかに丹の痕跡がみられる。103は下端内面が部分的に張り出しており、底外面に麴の圧痕がみられる。77・81は最下面、94・95・96・101はSD120・3層との境、100はSD170との境から出土した。丹塗り土器を含み、後期前葉・高三湖
第25図  S D 120 - 3 層出土土器実測図① (1/4)
第26図 S D 120・3層出土土器実測図②(1/3)

式土器の台相を主体とする。

石器は、纏繰車未成品(106・107)、石鏡(108・109)、磨石(110)、砥石(111)、玄武岩製大型刃器(112)、円盤形石器(113)が出土した。106は削製成形段階のもの、107は研磨成形段階のもので、107は前後面・側面に幅4〜8mmの削り底が残る。108は下端に浅い流れ痕が認められるため、縦方向で使用したと推定される。109は下端に小刺線が認められ、水底着底時の衝撃によると推定される。111は前面のみを使用しており、上端は破断後、縦辺を再調整して小型砥石に再生している。112・113は削片の縁辺に片面加工と片面加工を施し、器形・器型両方の機能を有している。
第27図  S D120- 3層出土木器実測図(1/4)
3層出土遺物(第25·30·42図) 土器・土製品は、甕(114~117)、各種塗(118·127·129)、無頸壷(128)、高戸(130·131)、器台(132)、小型鉢(133·135)、管状土壷(257)が出土した。120は肩部に方形の透かし窯が焼成成形で付けられる。122は袋部が焼成後打ち欠きで突孔される。121は口唇部にへら状工具による刻みが施される。124は縁部直で、肩部下部の表面をケズリ内面をケズリ風の強いハケケで仕上げる。127は蓋肩部で、径1.5cmほどの粘土円盤が貼り付けられる。129は外面を粗いミガキで仕上げ、わずかに月の痕跡が残る。131は外面にわずかに月食りの痕跡が残る。132は外面に横軸平行タタキ痕が残る。これらは弥生時代後期中頃~後半~下大隅式を下限として、弥生時代中~後期土器が含まれる。257は土師器の土壷で、上層からの検入と考えられる。

木器は三叉鎌(136)、鎌(137·138)、板状木製品(139·140)、刺突具(141·142·153)、堅材(143)、たも枡(144)、拘い具(145·146)、宗器把(147)、組み物部品(148)、隠部品(149)、一物(150)、振り棒(151·152)、分割材(154)、板材(155)、分割棒材(156)、柾材(157)、柾(158·159)が出土した。138は樫種・木取から鎌と想定するが、柄孔に傾斜がつかないため、他の器種の可能性もある。140は放射方向に長い柾目取材で、先端が片刃状で先端が片刃状で先端が片刃状で先端が片刃状で先端が片刃状である。150は突起物の可能性がある。141は本体で、先端に向けて円状に削った加工痕が全体に認められる。先端に片刃状に加工され丸みを帯びている。刺突具もしくは柾桁などの用途が想定される。142は体部断面形状が扇平で先端が断面方形~三角形に削られて尖る。143よりも先端が尖っており、刺突具の可能性が高い。143は持ち木の末尾を面取りして収めており、柾材の柾部と考えられる。144は一端を頭部状に削り出して、角掛け部となっている。147は柾把手にも似るが、木取りから

第28図 S D120·2~4層出土木器実測図(1/4)
第29図 S D 120・3層出土木器実測図②(1/6)
第30図 S D 120・3 層出土石器実測図（160は1/1、161～163は1/2、164・165は1/3、166は1/4）
容器の把手の可能性が高し。148は侧偏に浅い半円形の透かしが施された大型の組み物部品で、片面が焼けた炭化している。150は板片取り一木作りの動で、側部の両側に「フ」字状の切り込みが入る。断面形はほぼ対称形だが、わずかに平端な方向を前方向とし、わずかに丸みをなす方向を後方向として用い、図は明確に使用痕も見察できない。151は樫材の下方を前後面から全面に割り、断面V字状の刃としている。刃部は摩耗して丸みをおびる。152は芯持ち丸木材の前側に前後面を取りし、先端を尖らせている。先端は磨耗している。153は分割材から方材状の材を取り、上端を丸く収め、下端を段状に収めている。ヤスのような制御具が考えられる。156は上端の木表側が先端に向かって粗く削られて、下端は焼かれて炭化している。157は樹皮を残す棒材で、上端は切れて下端、下端は焼かれて炭化している。158は下端を粗く削り、上端は枝分かれ部分を切り落とし、木端は折り切って収められた。159は下端が粗く削られて、上端は折り棄てられた状態で、上下端ともに焼かれて炭化している。

石器は、小型柄長胴片(160)、石肌丁未木片(161)、投弾(162)、石錐(163)、玄武岩製大型刃器(164)、円盤形石器(165)、分割刺織糸(166)が出土した。163は下端に使用に伴う考えられる残り痕跡が認められる。164は柄長胴片の末梢端付近に両面加工を、側面付近に片面加工を施しており、器物・器物両方の機能を有した刃物と考えられる。166は、小型の違形な川原石の縁付加工を施している。

166は角状の原石を彫刻したものである。

2層出土物(第31～33・35～38・42回)土器は、壹(167・168)、脚付壹(169・170)、錨(172～174)、各種壷(171・175～183)、小型壷(184)、小型錨(185～188)、小型壷(189)、高谷(190～192)、器台(193・195～197)、支流(196・198・199)、小皿土製品(259)、円筒形土製品(258・260)、匙形土製品(261)、円盤形土製品(282)が出土した。167は腹部下半をタテクロスで仕上げる。170は脚部を対向する2ヶ所が打ち欠かされている。173は脚部下半をケンで仕上げる。174は胎釉に金釉色を多く含む。178は小型の直口壷で、胎部外面は白磁色のテラミガで仕上げ、口部には片状刃物による制御を施す。179は頸部に低い断面三角形突起をめぐらし、その上にヘラ状工具による適度な斜線を施す。182は外縁を丁寧なテラミガで仕上げ、底面には焼成後の炭痕を「X」形で認められる。183は、底部中央に焼成前の円形孔が細かく貫かれる。187は丸玉形で底部が凹む形状をなし、外面を密塗層で仕上げる。器具不明だが、これは小型製品の如である。188は、高壷脚部の付け根部分を再加工し、反転して小型錨としたものと考えられる。S.D.170と重複する位置から出土した。189は小型の壷で、天井の波みと胎の釉無し孔を有し、表面窪窪は規則的に gere後欠をもたれている。192は小型高壷の脚部で、外面にわずかに殷が残る。190は器部をより短冊状の位置に4つ大きな溝がある。191は高壷脚部の腹を打ち欠き成型した再加工品で、5ヶ所の穿孔がある。199は持ち手下部で、突起部が焼けている。259は、小皿状の形態で中央に円形の合を設けており、全体をミギシナデで丁寧に仕上げている。258は、高壷脚部に成形し、頂点部分を平坦に仕上げた形状をなす。器具不明だが、蓋や支脚の可能性もある。260は、支脚部を残した土製品で、天井外面はやや凹む。外面には区画接続線が施され、上端は有軸乳状、下端は横軸平行線と斜線線からなる変形の斜格子線となる。262は壷底部を円筒形に再加工している。

石器は、軽石製斧(307～210)、石錨(212)、石鉤(213)、砥石(214・215)、大型砕刃石斧(216)、大型砥石(217・218・219)、礫石錨(220～225)、石核(226)、玄武岩製大型刃器(227～229)、礫石(230・231)、礫石(232～234)が出土した。213は幅22mmほどの工具で側切りながら粗く成型した痕跡が残る。214と215は同一個体で、角柱状で4面砥面とし、溝状の砥ぎ痕跡が認められる。217・218は大型扇形な川原砥石を長方形に打ち割り、前後面と打ち割った面を粗く研磨成型し
第32図 S D120・2 層出土土器実測図②（180～183は1/4、他は1/3）
た未使用品である。219は片面のみに幅広で浅い砥面が形成され、一辺边が打ち欠かれている。220～224は縁边に浅い凹みを設けて縫掛け部としている。226は大型の川原石から得た分割素材から小型の横切片を剥離している。227・228は横切片の縁辺に両面・片面加工を施した削器・器配である。232・233は業面に磨面も形成される。234は前業面の同じ位置に同じ大きさの敲打痕が残る。この他、花崗岩の風化樹と考えられる赤色岩石片が少量ながらも集中して出土している（本書第Ⅴ章第2節）。

銅器は、鍛造鉄斧（265）が出土した。側辺が平行する中型斧で、後駁が欠損する。基部前面に幅2
第34図  S D 120・1層出土土器実測図(1/4)

高さ1mmの突起が2条付けられる。後面の破断面は風化面となっており、刃部が丸く渦れていることから、後面破損後、斧とは別の用途で刃部を使用し続けたと考える。S D 170と重複する位置から出土した。

以上より、遺物の下限時期は弥生時代後期末・下大塚式新段階～古墳時代初期・西新式古墳階と考えられる。2層はS D 170上層とともに、樹部を打ち欠いた脚付き壷や底部無部土器、底部穿孔土器、ミニチュア土器、土製品、鍛造鉄鉢、赤色塗石など、特殊遺物の出土を特徴とする。

1層出土遺物(第34・35図) 壺(200・201)、壷(203)、高塚(204)、器台(205)、支脚(202)、石製鉤鉾(206)、石製投矢(211)が出土した。201は外壁上半にタタキ痕を残す。204は樹部に焼成前穿孔が3ヶ所認められる。206は器頸径4.45cmを測る。遺物の時期は弥生時代後期末～古墳時代初期・下大塚式～西新式土器であり、縁溝S D 120の下限時期を示すと考えられる。

S D 170(第20図) S D 120と合流する、幅2.5m、深さ60cmを測る断面で字形の溝である。南の大塚遺跡第11次調査区から北西方向へ走っていた溝が、径2〜3cmの深い凹みを介して、北東方向へ向きを変えてS D 120へ合流する。掘削の当初は、S D 120が平地的に側面に張り出しているという認識で、「S D 120側面張り出し」として遺物を取り上げており、土質としてはS D 170上層とS D 120・2層がほぼ同質で区別できなかった。しかし、掘削をすすめると、「S D 120側面張り出し」の下層がオリーブ灰色の粘質砂となり、S D 120に対して北東方向へ入り込む平面形であることが判明したため、これをS D 170(下層)と変更した。S D 120と170は別々の溝であり、S D 120・2層形成時にも本来的には別の溝であったと考えられる。よって、S D 120・2層として取り上げた遺物に
第35図  S D120・1・2層出土石器実測図（206〜213は1/2，他は1/3）
第36圖  S D 120．2層出土石器實測圖⑪(1/3)
第37図 S D 120・2層出土石器実測図②(220〜224は1/3、他は1/4)
第38図  S D120・2層出土石器実測図③(1/3)
は、SD170上層出土のものが含まれる場合がある。例えば、SD120・2層出土として報告している前方の第32図188、第57図225、第42図265は、平面的な位置からはSD170上層出土の可能性がある。堆積は、下層が砂質土・粗砂で流水が主な堆積環境にあったのに対し、上層は暗色粘土土となり、SD120と同様に漏水環境への変化が認められる。

SD170出土遺物（第39・41・42図）下層から、壷(235)、壷(236)、罫(237)、上層から、壷(240)、壷(238・239)、脾付壷(241)、円筒形土製品(263)が出土した。239は口肩部にハケメ工具端による装飾が施される。下層出土土器は弥生時代後期半・高市式土器の前半代、上層出土土器が弥生時代後期後半・下大袋式の新しい段階と考えられる。石器は、投弾(248)、石鏃(249)、礫石鎚(250)、玄武岩製小型刃器(251)、礫石(253)が出土した。249は中心で破断し、磨滅しているため、穿孔部より上方への骨の有無が不明である。滑を成形する前に破断しているかもしれない。250は細い溝が形成され砥石としての使用もみられるが、石材や形態から礫石鎚の可能性が考えられる。251は後面に素材面を残した横長剥片の末品を両面加工して刃部とした。鉄器は、鍛造鉄斧(266)が出土した。刃部は幅広く断面をなす大型斧である。前述のように、SD120・2層出土と同一出土形をもするが、SD170出土の可能性がある。

SD130第20図：SD120西側に厚さ約10～15cmほどで堆積した灰色土～セルフ・灰色粘土層である。SD120と平面的に分離するが、堆積としてはSD120・2層と同質のものである。残りが変に詳細は不明であるが、SD120・2層の層直し時に生じた排土層の可能性もある。

出土遺物（第40・41図）壷(243)、鉄(244)、小型鉄(245)、底部穿孔土器(246)、高の(247)、石製工具(252・256)、石製投弾(254・255)が出土した。244は、口肩部が厚い平壌に成形され、外面にタタキ痕を残す。246は、底部中央に焼成前の円形孔が残る。247は部部に焼成前の穿孔が3ヶ所認められる。256は上方へ向けながら傾きが残り、孔・溝を複数する部分に斜めが残る。遺物から縁部の時期は、古墳時代初頭で、SD120・2層と同時期と考えられる。

SD090(第20図)：SD120上に堆積した層状堆積で、人頭大花崗岩をともに遺物を散漫に含む。本層の堆積手法群の傾向はSD120・2層と同様であり、様々な環境下で堆積する堆積手法が混在している。漏水が陥没しながら、周囲の表層土壌が漏水等によって流れ込む堆積環境であったと推定される（本書第5章第3節）。上層のS X 002が平面的に広がっているのに対し、SD090は下層のSD120上に堆積層にほぼ重なっていることから、SD120の使用歴が失われた後、そこが堆積作用によって埋没した過程でSD090が形成されていると考えられる。

出土遺物（第42～45図）壷(267)、鉄(269)、各種器(268・270～274・278)、高平(275～277)、罫(279)、木附(280)、筒状土製品(264)、壻輪(282)、須恵器(283)、龍泉窯系青磁釉(281)が出土した。270は古墳時代前期の長角縄を、271は口縁部に竹管穿孔粘土小円盤を2個貼り付ける。274は口縁内面から外面に月を残す。277は縁部に2段小円孔が3ヶ所存在する。279は方形透かしが設けられ、割り縁はヨコ・タテハケメで文様効果をもたせている。280は、側面をつまみ上げて突起を作っている。264は高角形的下部の破断部を水平に再加工し、筒状の形状を残したものを、用途不明である。282は足筒壴輪下端部で、胎土は砂粒が少なく、焼成良好、にぶい紫褐色を呈す。S X 002出土円筒輪鉄189と類似し、同一個体の可能性もある。281は、龍泉窯系青磁釉2類（E期、13世紀前後〜前半）で、オリーブ灰色釉が全体に厚くかから、大きめの裂れがみられる。土壌層からは、石器(284)、玄武岩製大型刃器(285・286)が出土した。285・286は横長剥片の縁部に片面・両面加工を施した楯器・削器である。285は前面中央には直棱痕跡も認められる。
第41図  S D170・130出土石器実測図(248・249・252・266は1/2、他は1/3)
第42図  S D 120・170・090出土土製品・鉄器実測図(1/3)
第43図 S D090出土土器実測図(1/4)
第44図 S D090出土遺物実測図（278〜280は1/3，他は1/4）
6. 包含層 S X

調査区中央と東区を中心に、遺物包含層が遺構面上に広く堆積していた。比較的均質な粘質土で、遺物を散乱に含みながら、水平に堆積している。このような堆積は洪水などによる急激なシルト・砂の堆積というよりは、下層の S D090 と同様に長期間の安定した堆積作用による堆積と考えられる（本書第5章第3節）。包含層下の遺構の残りは良好とは言えず、遺構面は包含層の形成とともに水平に削られている。包含層中に含まれる弥生時代中期～中世にいたる遺物は、本来何らかの遺構埋土に含まれていた遺物で、堆積作用による遺構の破壊に伴って包含層中に混在したものと考えられる。S X002（第20図）S D090 上に堆積した厚さ60～80cmの褐灰色シルト質粘土層で、遺物が散漫に含

第45図 S D090・S X002出土遺物実測図（284は1/2、285～287は1/3、他は1/1）
第46図 S X出土遺物実測図(1/3)

まれる。S D 0 9 0 の範囲より東西に広く堆積している。場所によって土質はわずかに異なるが、連続的なものであり層層は行えなかった。S D 0 0 1 に西端を切られているので、その先は一体的でない。写真においては、S D 0 0 1 以外には遺構を検出していない。出土遺物(第4 5・4 6 図) 自磁の柄(3 0 1)・合子身(3 0 2)、土師器柄(3 0 3)、須恵器理蓋(3 0 4)、埴輪(3 0 5)、磨製石斧(2 8 7)、緑色ガラスの箇片(2 8 8)、陶製貫通玉(2 8 9)、ガラス製小玉(2 9 0・2 9 1)が出土した。3 0 1 は、自磁柄IV類(屈藤)で、ややオリーブ色がかった灰白釉が薄く均一にかかり、貫入はみられない。3 0 2 は、受け部・胴部下半が釉で、オリーブ色がかった透明釉が薄くかけられ、細かい貫入がみられる。3 0 3 は割の側部が外縁し、浅く、7 世紀中頃に位置づけられる。天井部にヘラ記号が残る。3 0 5 は円形透かし孔をもつ円筒埴輪で、胎土は砂粒を少なくて含み、焼成は良好で、色調はにぶい黄褐色を呈す。2 8 7 は定角式の大型柄で、両刃面に平行する側面の線状痕が認められる。2 8 9 は、乳白色～薄茶色を呈す石材で、理化学分析では黒磁という結果が得られている(本書第Ⅴ章第1節)。包含層の形成時期の下限は、自磁柄の時期から11世紀後半～12世紀前半と考えるが、下層のS D 0 9 0 に龍泉窯系青磁柄Ⅱ類(E期)の2 8 1 が混入していることから、13世紀前半まで下る可能性
第47図 S D001土層(1/50)および出土遺物実測図(1/3)

もある。
S X003 東区東側に厚さ3〜5cmと薄く残存した暗褐色シルト質粘土層で、摩滅した弥生土器小片を含む。遺物は平面で8区に分け、東側をS X003、西側をS X005として取り上げたが、内容に差がないため、S X003に一括して報告する。底面は凹凸をなし、生痕を残す。
出土遺物(第46図) 弥生時代中期後半の壺(292・293)、古墳時代初頭の壺(294)が出土した。この他、弥生時代中期後半〜後期の土器、壺・壺・壷等の土器小片がコンテナケース2箱で出土した。弥生時代〜古墳時代初頭遺物のみを含むことで、前述の西区包含層S X164・165よりも古い様相を示す包含層であり、環縁集落が残された直後に堆積した可能性が高い。
S X164・165 西区西側に堆積した暗褐色シルト質粘土層で、摩滅した弥生土器小片を含む包含層である。土器が比較的集中する落ち込み部分の遺物をS X164、その他をS X165および西区検出面として取り上げた。前述の東区包含層S X003と類似するが、含まれる遺物の時期がより新らしい。
出土遺物(第46図) S X164からは弥生時代後期前期・高島型式土器の壺(295)が出土した。S X165からは、須恵器の壺(296)、円筒埴輪片(297)、西区検出面からは、縁部陶器の壺(298)が出土した。296は内外面に強いうが方向の調整がみられる。297は幅広で低い突起が貼り付けられ、透かしが付けられる。
S X 108および出土遺物（第4・46図） 西区中央北側で検出した段落ち状の遺構である。検出できたのは部分的であり、遺構の性格は不明である。中世後半の白磁磁（299）、短丸瓦（300）が出土した。

7. 準S D
S D001（第4・47図） 西区・1面（S X 002上）で検出した溝で、S X 002に合流する形で東方向へ直線的に走る。幅2m、深さ30〜40cmを測り、断面形は緩やかなU字形を呈す。埋土は下層が黑灰系棕色、上層が細・中砂の互層で、溝最下面に接する地山がブラウン化する。溝が斜分かれたり、小型の溝が並走していた痕跡が認められ、水路としての機能が推定される。南側に、1mピッチで水杭を打った近現代水路が重複・並走している。

出土遺物（第47図） 弥生時代中期後半の大型壷（314）、円筒埴輪（310）、白磁の入（306・307）、黒色土器半領（308）、平瓦（309）が出土した。314は陶器格の大型壷口部をし、弥生時代中期後半・須恵器式土器である。310は塗装鮮麗、焼成良好な円筒埴輪底部片で、復原残高230cmを測る。306と307は白磁半領（B期）で、細かい文様が認められ、同一個体の可能性がある。器物の下限の時期は、白磁半領の時期から1100年後半〜11世紀中頃であるが、遺構の下限はS X 002と同時期の12世紀前半もしくは13世紀前半まで下る可能性もある。この他、弥生土器・須恵器・陶磁器小片・鉄滓・鍛造片製石製石器片、玄武岩片がコンテナケース2箱分出土した。

第1表 出土土器・土製品観察表（1）

<table>
<thead>
<tr>
<th>裏番</th>
<th>品番</th>
<th>地区</th>
<th>先</th>
<th>法</th>
<th>展</th>
<th>短</th>
<th>直径</th>
<th>厚</th>
<th>保存状態</th>
<th>重量</th>
<th>形式</th>
<th>他色</th>
<th>他色</th>
<th>他色</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>8</td>
<td>1</td>
<td>SP 97</td>
<td>1/1</td>
<td>材楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>2</td>
<td>SP 96</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>3</td>
<td>SP 95</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>4</td>
<td>SP 94</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>5</td>
<td>SP 93</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>6</td>
<td>SP 92</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>7</td>
<td>SP 91</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>8</td>
<td>SP 90</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>9</td>
<td>SP 89</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>10</td>
<td>SP 88</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>11</td>
<td>SP 87</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>12</td>
<td>SP 86</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>13</td>
<td>SP 85</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>14</td>
<td>SP 84</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>15</td>
<td>SP 83</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>16</td>
<td>SP 82</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>17</td>
<td>SP 81</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>18</td>
<td>SP 80</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>19</td>
<td>SP 79</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>20</td>
<td>SP 78</td>
<td>1/1</td>
<td>美楽器</td>
<td>1/10</td>
<td>磁磁・磁磁・磁磁</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
<td>8/10</td>
</tr>
</tbody>
</table>

53
<table>
<thead>
<tr>
<th>感圧計</th>
<th>地点</th>
<th>位置</th>
<th>周辺</th>
<th>位置（cm）</th>
<th>高さ</th>
<th>深度</th>
<th>色調</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>14</td>
<td>S090</td>
<td>3.0</td>
<td>5.0</td>
<td>8.0m以下に自然重力</td>
<td>10.0</td>
<td>灰色</td>
<td>深灰色</td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>S092</td>
<td>3.0</td>
<td>5.0</td>
<td>8.0m以下に自然重力</td>
<td>10.0</td>
<td>灰色</td>
<td>灰色</td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>S093</td>
<td>3.0</td>
<td>5.0</td>
<td>8.0m以下に自然重力</td>
<td>10.0</td>
<td>灰色</td>
<td>深灰色</td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>S094</td>
<td>3.0</td>
<td>5.0</td>
<td>8.0m以下に自然重力</td>
<td>10.0</td>
<td>灰色</td>
<td>深灰色</td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>S095</td>
<td>3.0</td>
<td>5.0</td>
<td>8.0m以下に自然重力</td>
<td>10.0</td>
<td>灰色</td>
<td>灰色</td>
</tr>
<tr>
<td>19</td>
<td>S096</td>
<td>3.0</td>
<td>5.0</td>
<td>8.0m以下に自然重力</td>
<td>10.0</td>
<td>灰色</td>
<td>深灰色</td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>S097</td>
<td>3.0</td>
<td>5.0</td>
<td>8.0m以下に自然重力</td>
<td>10.0</td>
<td>灰色</td>
<td>深灰色</td>
</tr>
<tr>
<td>21</td>
<td>S098</td>
<td>3.0</td>
<td>5.0</td>
<td>8.0m以下に自然重力</td>
<td>10.0</td>
<td>灰色</td>
<td>深灰色</td>
</tr>
<tr>
<td>22</td>
<td>S099</td>
<td>3.0</td>
<td>5.0</td>
<td>8.0m以下に自然重力</td>
<td>10.0</td>
<td>灰色</td>
<td>深灰色</td>
</tr>
<tr>
<td>23</td>
<td>S100</td>
<td>3.0</td>
<td>5.0</td>
<td>8.0m以下に自然重力</td>
<td>10.0</td>
<td>灰色</td>
<td>深灰色</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注：この表は出土土器・土製品観察表（2）を示しています。
<table>
<thead>
<tr>
<th>番号</th>
<th>部分</th>
<th>外観</th>
<th>関連</th>
<th>種類</th>
<th>原因</th>
<th>質感</th>
<th>颜色</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1-1</td>
<td>3010</td>
<td>中段柄</td>
<td>長さ</td>
<td>甲虫</td>
<td>丸形</td>
<td>皮革</td>
<td>褐色</td>
</tr>
<tr>
<td>1-2</td>
<td>3011</td>
<td>中段柄</td>
<td>宽度</td>
<td>甲虫</td>
<td>丸形</td>
<td>皮革</td>
<td>褐色</td>
</tr>
<tr>
<td>1-3</td>
<td>3012</td>
<td>中段柄</td>
<td>長さ</td>
<td>甲虫</td>
<td>丸形</td>
<td>皮革</td>
<td>褐色</td>
</tr>
<tr>
<td>1-4</td>
<td>3013</td>
<td>中段柄</td>
<td>長さ</td>
<td>甲虫</td>
<td>丸形</td>
<td>皮革</td>
<td>褐色</td>
</tr>
<tr>
<td>2-1</td>
<td>3014</td>
<td>中段柄</td>
<td>長さ</td>
<td>甲虫</td>
<td>丸形</td>
<td>皮革</td>
<td>褐色</td>
</tr>
<tr>
<td>2-2</td>
<td>3015</td>
<td>中段柄</td>
<td>長さ</td>
<td>甲虫</td>
<td>丸形</td>
<td>皮革</td>
<td>褐色</td>
</tr>
</tbody>
</table>

第1表 出出土具・土製品観察表（3）
<table>
<thead>
<tr>
<th>時間</th>
<th>番号</th>
<th>個体</th>
<th>性</th>
<th>頭骨</th>
<th>関節</th>
<th>腎</th>
<th>共通</th>
<th>呼吸器</th>
<th>消化器</th>
<th>胴体</th>
<th>その他の</th>
<th>色</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>S010</td>
<td>1</td>
<td>男</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>S010</td>
<td>2</td>
<td>女</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>S010</td>
<td>3</td>
<td>男</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>S010</td>
<td>4</td>
<td>女</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
<td>否</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（続く）
第1表 出土土器・土製品観察表（5）

<table>
<thead>
<tr>
<th>位置</th>
<th>部位</th>
<th>品位</th>
<th>質</th>
<th>長さ</th>
<th>包装</th>
<th>形状</th>
<th>装飾</th>
<th>色</th>
<th>他</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>48</td>
<td>SNN22</td>
<td>20K</td>
<td>塣面</td>
<td>小</td>
<td>背部を下部に切り開く</td>
<td>防腐</td>
<td>色白</td>
<td>原色</td>
<td>塩</td>
</tr>
<tr>
<td>44</td>
<td>SNN43</td>
<td>20K</td>
<td>塩面</td>
<td>小</td>
<td>塩の形状を含む</td>
<td>防腐</td>
<td>色白</td>
<td>原色</td>
<td>塩</td>
</tr>
<tr>
<td>45</td>
<td>SNN44</td>
<td>20K</td>
<td>塩面</td>
<td>小</td>
<td>塩の形状を含む</td>
<td>防腐</td>
<td>色白</td>
<td>原色</td>
<td>塩</td>
</tr>
<tr>
<td>46</td>
<td>SNN45</td>
<td>20K</td>
<td>塩面</td>
<td>小</td>
<td>塩の形状を含む</td>
<td>防腐</td>
<td>色白</td>
<td>原色</td>
<td>塩</td>
</tr>
<tr>
<td>47</td>
<td>SNN46</td>
<td>20K</td>
<td>塩面</td>
<td>小</td>
<td>塩の形状を含む</td>
<td>防腐</td>
<td>色白</td>
<td>原色</td>
<td>塩</td>
</tr>
<tr>
<td>48</td>
<td>SNN47</td>
<td>20K</td>
<td>塩面</td>
<td>小</td>
<td>塩の形状を含む</td>
<td>防腐</td>
<td>色白</td>
<td>原色</td>
<td>塩</td>
</tr>
<tr>
<td>49</td>
<td>SNN48</td>
<td>20K</td>
<td>塩面</td>
<td>小</td>
<td>塩の形状を含む</td>
<td>防腐</td>
<td>色白</td>
<td>原色</td>
<td>塩</td>
</tr>
<tr>
<td>50</td>
<td>SNN49</td>
<td>20K</td>
<td>塩面</td>
<td>小</td>
<td>塩の形状を含む</td>
<td>防腐</td>
<td>色白</td>
<td>原色</td>
<td>塩</td>
</tr>
<tr>
<td>51</td>
<td>SNN50</td>
<td>20K</td>
<td>塩面</td>
<td>小</td>
<td>塩の形状を含む</td>
<td>防腐</td>
<td>色白</td>
<td>原色</td>
<td>塩</td>
</tr>
</tbody>
</table>

第2表 出土石器観察表（1）

<table>
<thead>
<tr>
<th>石材の</th>
<th>形状</th>
<th>重量</th>
<th>長さ</th>
<th>柄</th>
<th>厚さ</th>
<th>他</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>SNN01</td>
<td>柄</td>
<td>長方形</td>
<td>1.45</td>
<td>1.7</td>
<td>原色</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>SNN02</td>
<td>柄</td>
<td>長方形</td>
<td>1.65</td>
<td>1.8</td>
<td>原色</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>SNN03</td>
<td>柄</td>
<td>長方形</td>
<td>1.85</td>
<td>2.0</td>
<td>原色</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>SNN04</td>
<td>柄</td>
<td>長方形</td>
<td>2.05</td>
<td>2.2</td>
<td>原色</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>SNN05</td>
<td>柄</td>
<td>長方形</td>
<td>2.25</td>
<td>2.4</td>
<td>原色</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>SNN06</td>
<td>柄</td>
<td>長方形</td>
<td>2.45</td>
<td>2.6</td>
<td>原色</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>SNN07</td>
<td>柄</td>
<td>長方形</td>
<td>2.65</td>
<td>2.8</td>
<td>原色</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>SNN08</td>
<td>柄</td>
<td>長方形</td>
<td>2.85</td>
<td>3.0</td>
<td>原色</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>SNN09</td>
<td>柄</td>
<td>長方形</td>
<td>3.05</td>
<td>3.2</td>
<td>原色</td>
</tr>
</tbody>
</table>

57
第2表 出土石器観察表（2）

<table>
<thead>
<tr>
<th>番号</th>
<th>序列</th>
<th>項目</th>
<th>成分</th>
<th>形状</th>
<th>原色</th>
<th>比重</th>
<th>硬度</th>
<th>長さ</th>
<th>幅</th>
<th>高さ</th>
<th>重さ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>11</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>3.90</td>
<td>3.90</td>
<td>2.6</td>
<td>17.91</td>
<td>鉄色</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>0.5</td>
<td>0.5</td>
<td>1.26</td>
<td>3.07</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>3.90</td>
<td>3.90</td>
<td>2.6</td>
<td>17.91</td>
<td>鉄色</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>5.8</td>
<td>2.15</td>
<td>3.05</td>
<td>3.05</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>23</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>3.90</td>
<td>3.90</td>
<td>2.6</td>
<td>17.91</td>
<td>鉄色</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>3.1</td>
<td>3.1</td>
<td>1.2</td>
<td>51.14</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>28</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>3.90</td>
<td>3.90</td>
<td>2.6</td>
<td>17.91</td>
<td>鉄色</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>33</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>3.1</td>
<td>3.1</td>
<td>1.2</td>
<td>51.14</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>34</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>3.90</td>
<td>3.90</td>
<td>2.6</td>
<td>17.91</td>
<td>鉄色</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>35</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>3.90</td>
<td>3.90</td>
<td>2.6</td>
<td>17.91</td>
<td>鉄色</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>36</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>3.90</td>
<td>3.90</td>
<td>2.6</td>
<td>17.91</td>
<td>鉄色</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>37</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>3.90</td>
<td>3.90</td>
<td>2.6</td>
<td>17.91</td>
<td>鉄色</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>38</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>3.90</td>
<td>3.90</td>
<td>2.6</td>
<td>17.91</td>
<td>鉄色</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>39</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>3.90</td>
<td>3.90</td>
<td>2.6</td>
<td>17.91</td>
<td>鉄色</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>40</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>3.90</td>
<td>3.90</td>
<td>2.6</td>
<td>17.91</td>
<td>鉄色</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>41</td>
<td>1</td>
<td>SK004</td>
<td>3.90</td>
<td>3.90</td>
<td>2.6</td>
<td>17.91</td>
<td>鉄色</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

58
<table>
<thead>
<tr>
<th>号</th>
<th>様品番号</th>
<th>品種</th>
<th>区域</th>
<th>記号</th>
<th>棟</th>
<th>頂</th>
<th>開</th>
<th>尺寸</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>2</td>
<td>37 235 3</td>
<td>3</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>15.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>26</td>
<td>37 237 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td>37 238 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>15.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>28</td>
<td>37 239 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>29</td>
<td>37 240 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>30</td>
<td>37 241 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>15.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>31</td>
<td>37 242 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>15.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>32</td>
<td>37 243 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>33</td>
<td>37 244 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>34</td>
<td>37 245 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>15.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>35</td>
<td>37 246 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>15.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>36</td>
<td>37 247 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>15.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>37</td>
<td>37 248 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>38</td>
<td>37 249 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>39</td>
<td>37 250 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>40</td>
<td>37 251 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>41</td>
<td>37 252 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>42</td>
<td>37 253 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>43</td>
<td>37 254 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>44</td>
<td>37 255 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>45</td>
<td>37 256 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>46</td>
<td>37 257 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>47</td>
<td>37 258 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>48</td>
<td>37 259 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>49</td>
<td>37 260 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>50</td>
<td>37 261 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>51</td>
<td>37 262 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>52</td>
<td>37 263 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>53</td>
<td>37 264 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>54</td>
<td>37 265 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>55</td>
<td>37 266 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>56</td>
<td>37 267 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>57</td>
<td>37 268 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>58</td>
<td>37 269 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>59</td>
<td>37 270 2</td>
<td>2</td>
<td>北部</td>
<td>太平</td>
<td>16.15</td>
<td>17.5</td>
<td>3.3</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
</tbody>
</table>
### 第2表 出土石器観察表（4）

<table>
<thead>
<tr>
<th>部品番号</th>
<th>原形番号</th>
<th>原形</th>
<th>原形備考</th>
<th>保存方法</th>
<th>持有割</th>
<th>構造</th>
<th>材料</th>
<th>その他の</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>101</td>
<td>SD000</td>
<td>原形</td>
<td>原形備考</td>
<td>保存方法</td>
<td>持有割</td>
<td>構造</td>
<td>材料</td>
<td>その他の</td>
<td>備考</td>
</tr>
<tr>
<td>102</td>
<td>SD010</td>
<td>原形</td>
<td>原形備考</td>
<td>保存方法</td>
<td>持有割</td>
<td>構造</td>
<td>材料</td>
<td>その他の</td>
<td>備考</td>
</tr>
<tr>
<td>103</td>
<td>SD020</td>
<td>原形</td>
<td>原形備考</td>
<td>保存方法</td>
<td>持有割</td>
<td>構造</td>
<td>材料</td>
<td>その他の</td>
<td>備考</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 第3表 出土木器観察表

<table>
<thead>
<tr>
<th>被検品</th>
<th>品番</th>
<th>原形番号</th>
<th>原形</th>
<th>原形備考</th>
<th>保存方法</th>
<th>持有割</th>
<th>構造</th>
<th>材料</th>
<th>その他の</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>104</td>
<td>S010</td>
<td>原形</td>
<td>原形備考</td>
<td>保存方法</td>
<td>持有割</td>
<td>構造</td>
<td>材料</td>
<td>その他の</td>
<td>備考</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>105</td>
<td>S020</td>
<td>原形</td>
<td>原形備考</td>
<td>保存方法</td>
<td>持有割</td>
<td>構造</td>
<td>材料</td>
<td>その他の</td>
<td>備考</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 第4表 出土玉類・鉄器観察表

<table>
<thead>
<tr>
<th>被検品</th>
<th>品番</th>
<th>原形番号</th>
<th>原形</th>
<th>原形備考</th>
<th>保存方法</th>
<th>持有割</th>
<th>構造</th>
<th>材料</th>
<th>その他の</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>106</td>
<td>S030</td>
<td>原形</td>
<td>原形備考</td>
<td>保存方法</td>
<td>持有割</td>
<td>構造</td>
<td>材料</td>
<td>その他の</td>
<td>備考</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>107</td>
<td>S040</td>
<td>原形</td>
<td>原形備考</td>
<td>保存方法</td>
<td>持有割</td>
<td>構造</td>
<td>材料</td>
<td>その他の</td>
<td>備考</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>